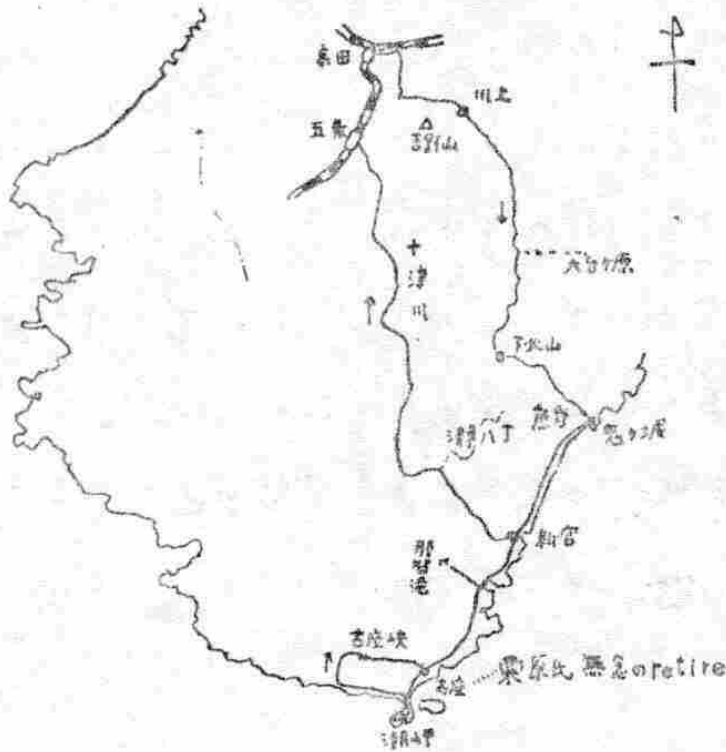


春合宿の思い出(足の痛みをたえかねて!)

栗原和明

期間 昭和52年 3月 日 ~ 4月 日  
メンバー 鈴木E氏, 涌島氏, 曾我部氏, 鈴木I氏, 栗原  
コース 下図参照



こゝは潮岬ナソトカコース。朝?時、私は目をさます。例によ  
ってコースのぼろスピーカーから、歪たらたらうるさ音楽が、こ  
ちよい目ざめをだいなしにするのであった。「うるさいなもう  
。ああ、家のJBLしになつかしいな。」と思いつつ、起きようと足  
に力を入れたとき。「ギリッ」、かざに激痛が走る。(ウレオ  
ーバーかな?)、「ウグッ、痛みは取れてないなあ。きのうより  
もはげしくなってるかもしれない。」合宿初日から感じていたひ  
ざの痛み、日がたつにつれ、じわじわと大きくなっている。「合

宿終わりまでもつかない」と心配しつつ、朝食をとり、〇〇して、  
9時、ユースを出る。走り出して10分もすると、もう前を走る3  
人は見えなくなった。「いたいな。やっぱりきのうよりいたいよ  
う。」しかし、そこは、ど根性の栗原君。一人、ひざの痛みと戦  
いながら、懸命にペダルを踏むのである。(OH、なんと感動  
的なのでしょう。)

日ごと、足のいたみは増すばかり、なんとか古座峠をこえたが  
その先は、足はま、たく力がはいらない。さうかい、古座峠  
から先は、目的地の古座までず、と下りだ、たので、押し進みと  
いうま、たくみじめな目には合わずにすんだ。

次の日、私は一人輪行してる人と別れ、帰宅の途につくのでし  
た。

そこで、最後の一言

ちょっと待て

そのギア一比で

いいのかな

おもりギア比は

ひざにどくぞよ



川上から大台ヶ原へのよりにて